

聖書の祈りが私の祈りになる（旧約編）

第3章 ヨシュアからサウル王までの時代



ヨシュアのもと、イスラエルは約束の地に入り、これを従えました。全土は各部族の間で分けられ、それぞれが割り当てられた領土を完全に制圧するところとなりました。ところが、ヨシュアとその世代の時代が終わると、「主を知らず、また、主がイスラエルのためにされたわざも知らないほかの世代」（士師 2:10）が起きました。すなわち、この世代は、主について、また、紅海を渡ったことやその他の奇跡については知っていたものの、主ご自身のことは知らなかった、つまり、主の大いなる御力を自分自身の体験の中で知る
ということのない人々だったのです。ここから見てとれるのは、神との交わり、すなわち祈りが欠加していたということなのです。



その結果、各部族は結束を失い、倫理的に墮落するとともに、偶像礼拝に立ち戻ってしまいます。リーダーたちは敬虔な信仰を失い、「めいめいが自分の目に正しいと見えることを行っていた」（士師 17:6,21:25）という状態に陥ります。そして、神の裁きが、戦いにおける敗北と他民族による圧政という形でもたらされてしまったのです。人々が紆余曲折の後で悔い改め、助けを求めると、神はその祈りに答えて、解放者としての士師を起こされるのですが、士師が死ぬと人々は偶像礼拝に戻るというサイクルが、最終的にサムエルが各部族を統一するまで延々と繰り返されるのでした。サムエルの祈りは、信仰の復興と戦いの勝利という素晴らしい時代をもたらしました（Iサムエル 7:3、5、12-13）。ところが、サムエル亡き後、サウル王が王国の確立を試みますが、失敗します。そればかりか彼は、ヨシュアの時代に得られた領土の大半を失ってしまうのです。ヨシュアからサウル王までの時代は、全体を通じて信仰的なアップダウンに満ちた時代となっています。しかし、イスラエルの人々が悔い改めて立ち返り、祈りを通して助けを求める時、神は常にそこにいてくださるのでした。

ヨシュア

ヨシュアはモーセの直接の後継者でしたが、モーセほどの祈りの人であったようには見えません。彼が祈っていたことは疑う余地がありませんが、祈りの人というよりは行動の人であったようです。「主がそのしもべモーセに命じられたとおりに、モーセはヨシュアに命じたが、ヨシュアはそのとおりに行い、主がモーセに命じたすべてのことばを、一言も取り除かなかった」（ヨシュア 11:15）。

そのような中で、ヨシュアの祈りの欠如がイスラエルにとって永続的な問題をもたらすものとなった場面が、少なくとも一度ありました。愚かなことに、また、主からのご指示を仰がないままにギブオンの住民との間に盟約を結んでしまったという箇所です。「そこで人々は、彼らの食料のいくらかを取ったが、主の指示をあおがなかった」（ヨシュア 9:14）。

とはいえ、ヨシュアが祈っていたのは確かです。彼がヤハウエなる神と出会っている最初の記録は、イスラエルの司令官としての新しい役割の、まさに始まりの時に於いてです。ここでの主導権は完全に神の側にあるように思われます。というのも、ヨシュアがここで願いを何か捧げているという記録は全く見られないからです(ヨシュア 1:1-9 を参照)。しかし、聞くことは、祈りの中でも決定的に重要な部分を占めるものです。よく聞く人には、そうでない人と比べて願うことが少なくてもおかしくはありません。

ヨシュアの最初の祈りは主を認識する祈りですが、これは、ヨシュア記 5 章 13-15 節に記録されています。

さて、ヨシュアがエリコの近くにいたとき、彼が目を上げて見ると、見よ、ひとりの人が抜き身の剣を手に持って、彼の前方に立っていた。ヨシュアはその人のところへ行くと、言った。「あなたは、私たちの味方ですか。それとも私たちの敵なのですか。」すると彼は言った。「いや、わたしは主の軍の将として、今、来たのだ。」そこで、ヨシュアは顔を地につけて伏し拝み、彼に言った。「わが主は、何をそのしもべに告げられるのですか。」すると、主の軍の将はヨシュアに言った。「あなたの足のはきものを脱げ。あなたの立っている場所は聖なる所である。」そこで、ヨシュアはそのようにした。

この例におけるヨシュアの祈りは、「あなたは、私たちの味方ですか。それとも私たちの敵なのですか」と「わが主は、何をそのしもべに告げられるのですか」という 2 つの質問が全てです。それに対して与えられた答えは、どことなく啓示的なものとなっています。最初の質問に対する答えは、「尋ねるべきは、私が誰の味方か敵かではなく、誰が私の味方かということだ」という意味にも取れます。神の子どもたちの間での不一致は、互いに誰につくかを定めることではなく、主の側につくことを求め、選択することによってしか解決できるものではないのです。

第二の質問は、ヨシュアの心を明らかにしています。彼は従う準備ができていました。まさに主のしもべとなる準備ができていたのです。そして答えを得ました(15 節)。「あなたはしかるべき方の臨在の中にいます。だから、しかるべき敬意を示しなさい」---足のはきものを脱げと言うことで、神から造られた人はそう語っていたのでした。真に神のしもべとなろうとしている人々にとって、これほど崇高な教えはありません。

ヨシュアの祈りが次に記録されているのは、イスラエルがアイで敗北した直後のことです。

ヨシュアは着物を裂き、イスラエルの長老たちといっしょに、主の箱の前で、夕方まで地にひれ伏し、自分たちの頭にちりをかぶった。ヨシュアは言った。「ああ、神、主よ。あなたはどのようにしてこの民にヨルダン川をあくまでも渡らせて、私たちをエモリ人の手に渡して、滅ぼそうとされるのですか。私たちは心を決めてヨルダン川の向こう側に居残ればよかったです。ああ、主よ。イスラエルが敵の前に背を見せた今となっては、何を申し上げることができましょう。カナン人や、この地の住民がみな、これを聞いて、私たちを攻め囲み、私たちの名を地から断ってしまうでしょう。あなたは、あなたの大いなる御名のために何をなさろうとするのですか。」(ヨシュア記 7:6-9)

祈りについてパウロが語っていることを見ると、ヨシュアがこの時に置かれていた状況に完全に一致します。「私たちは、どのように祈ったらよいかわからないのです」(ローマ 8:26)。ヨシュアとイスラエルの長老たちが絶望的な状況に直面して徹底的にへりくだっているのは素晴らしいことですが、自分たちの災いについて神を非難しているのは愚かなことです。私たち人間は、いかにぼんやりとしか物事が見えていないものでしょうか。周

りを見る力のいかに乏しいことでしょうか。いかに愚かに神を責め立てていることでしょうか。

ヨシュアは、イスラエルの敵たちが神の民の敗北について語るはずの言葉を予測していますが、それは正確なものでした。また、主の御名に対する彼の熱心さは称賛に値するものでした。しかし、敗北の原因に対する判断は実に正確さに欠けています。ところが、主はそれでも、そのような誤った祈りについて彼を責めてはおられません。私たちは、常に事実を適切に理解したうえで祈っているとは限りません。しかし、私たちが祈るとき、神はあがめられ、神もまた、私たちの祈りを、調整を加えつつも尊重してくださるのです。

祈るには時があります。もちろん、祈りそのものが問題に解決をもたらしてくれないときもあります。しかし、そのような場合でも、問題が解決されるためにと、変わるべきことに光がもたらされる可能性はあるのです。「主はヨシュアに仰せられた。『立て。あなたはどのようにしてそのようにひれ伏しているのか。イスラエルは罪を犯した』」(ヨシュア 7:10-11)。罪が、イスラエルに敗北をもたらしました。そして勝利は、罪に対して裁きをもたらされるかどうかにかかっていたのです(ヨシュア 7:13-8:1、ヤコブ 5:16 を参照)。

ヨシュアの別の場面での祈りは、自然の介入を招くものとなりました。ヨシュア記 10 章 12-14 節に記録されているようなことを祈りによってなした人物は、他にはほとんど見られません。

…ヨシュアは主に語り、イスラエルの見ている前で言った。「日よ。ギブオンの上で動くな。月よ。アヤロンの谷で。」民がその敵に復讐するまで、日は動かず、月はとどまった。これは、ヤシャルの書にしているのではないか。こうして、日は天のまなかにとどまって、まる一日ほど出て来ることを急がなかった。主が人の声を聞き入れたこのような日は、先にもあとにもなかった。主がイスラエルのために戦ったからである。

このヨシュアの祈りに対する答えは、悪に対する戦いに神がどれほど喜んで関与してくださるかを示すものとなっています。神は、敵の敗北を確かなものとすべく、必要とあらば、ご自分の宇宙の永続的な動きまでも止めてくださるのです。これは、祈りによって信仰の戦いに加わっている人々にとって、実に大きな力を与えてくれる励ましとなるのではないのでしょうか。

? 質問

1. 士師時代、祈りが欠如していたために、人々はどんな結果を経験していましたか？
人々は、信仰的にアップダウンしていましたが、彼らが神に助けを求めた時、神は何をしてくださいましたか？
2. ヨシュアが神と出会っている最初の記録を見ると、彼の祈りにはどんな特徴があったことがわかりますか？
3. ヨシュアがヨシュア記 5 章で神にしている第 2 の質問には、彼のどのような心が現れていますか？
あなたもヨシュアと同じ心で神に祈る事がありますか？
4. アイでの敗北の後、ヨシュアが祈った祈りにはどのような誤りがありましたか？
あなたは自分がどのように祈ったらよいかわからないと思ったり、正しく祈っていなかったと思ったりしたことがありますか？ その時、神はあなたの祈りにどのように答えてくださいましたか？
5. ヨシュア記 10 章の祈りは、他に類を見ない祈りのひとつです。その祈りに神は答えてくださいました。
ここからあなたはどのような励ましを得ることができますか？
あなたにとって、このような励ましを必要とする戦いはどのようなものですか？